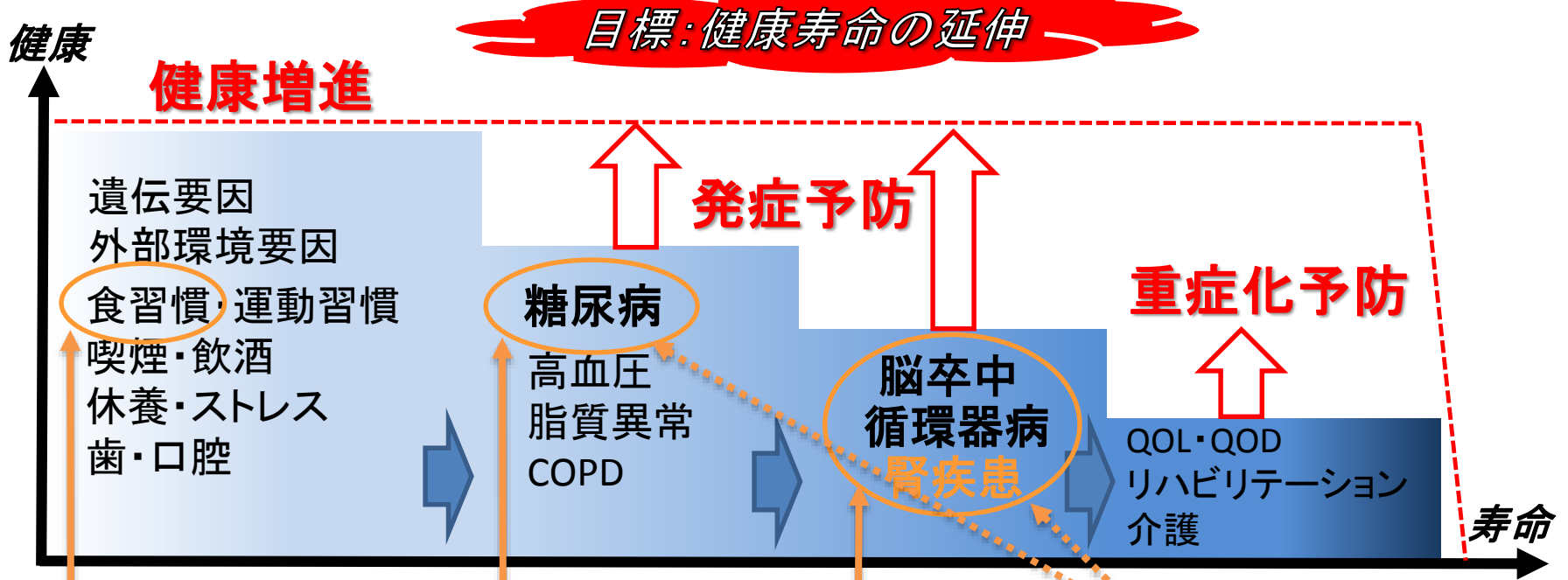


循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業



【背景】

- 循環器疾患・糖尿病等の生活習慣病は、死因の約3割、医療費の約2割を占め、生活の質への影響も大きい。
- こうした疾患の発症・重症化予防策は我が国における健康寿命の延伸・生活の質の向上、壮年期死亡の減少、医療費適正化といった目標を達成する上で中核的役割を担う。
- 当事業では循環器疾患・糖尿病等生活習慣病の発症・重症化予防を目標とし、基礎から実用化までの一貫した研究開発の推進を行っていく。



【H29年度1次公募】

【腎疾患実用化研究事業との合同公募】

- ・マクロ栄養素摂取量に関する新たなバイオマーカーの開発に関する研究
- ・心不全の発症・重症化予測とそれに基づく最適な治療戦略の開発研究
- ・心房細動の発症予測・予後予測とそれに基づく最適な治療戦略の開発研究
- ・脳卒中を含む循環器診療の質均てん化及び向上を目指す研究
- ・急性期脳卒中診療の均てん化に資する血栓溶解療法の推進を目指す研究

- ・糖尿病腎症の発症・重症化予測とそれに基づく予防に関する研究
- ・心腎連関のメカニズム解明および新規治療法の開発

循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業H29年度1次公募



	公募研究開発課題名	研究開発費の規模	研究開発実施予定期間	新規採択課題予定数
1	マクロ栄養素摂取量に関する新たなバイオマーカーの開発に関する研究	1課題当たり年間10,000千円程度(間接経費を含む)	最長3年 2017年度～ 2019年度	0～2課題程度
2	心不全の発症・重症化予測とそれに基づく最適な治療戦略の開発研究	1課題当たり年間20,000千円程度(間接経費を含む)	最長3年 2017年度～ 2019年度	0～2課題程度
3	心房細動の発症予測・予後予測とそれに基づく最適な治療戦略の開発研究	1課題当たり年間15,000千円程度(間接経費を含む)	最長3年 2017年度～ 2019年度	0～2課題程度
4	非侵襲的な画像検査を用いた脳卒中・心血管疾患の発症・重症化予測とそれに基づく最適な治療戦略に関する研究	1課題当たり年間15,000千円程度(間接経費を含む)	最長3年 2017年度～ 2019年度	0～2課題程度
5	大動脈疾患の診療の質均てん化と向上を目指す研究	1課題当たり年間10,000千円程度(間接経費を含む)	最長3年 2017年度～ 2019年度	0～2課題程度
6	弁膜疾患治療の有効性・最適化・費用対効果を明らかにする研究	1課題当たり年間10,000千円程度(間接経費を含む)	最長3年 2017年度～ 2019年度	0～2課題程度
7	脳卒中を含む循環器診療の質均てん化及び向上を目指す研究	1課題当たり年間15,000千円程度(間接経費を含む)	最長3年 2017年度～ 2019年度	0～2課題程度
8	急性期脳卒中診療の均てん化に資する血栓溶解療法の推進を目指す研究	1課題当たり年間15,000千円程度(間接経費を含む)	最長3年 2017年度～ 2019年度	0～2課題程度
9	肥満症の効果の高い治療戦略と減量数値目標を見出す研究	1課題当たり年間20,000千円程度(間接経費を含む)	最長3年 2017年度～ 2019年度	0～2課題程度

公募開始～研究開始までの主なスケジュール



公募期間	2016年11月8日（火）～12月16日（金）正午（注1）
書面審査	2016年12月中旬～2017年1月中旬頃
ヒアリング審査	2017年1月31日（月）、2月3日（金）の指定日（注2） ※必要に応じて実施
採択可否の通知	2017年2月中旬～3月上旬頃（注3）
研究開発計画書等提出	2017年2月中旬～3月下旬頃（予定）
契約締結・研究開発課題開始	2017年4月1日（土）（予定）

- (注1) : **e-Rad 登録正午〆切（郵送不可）期限を過ぎた場合には一切受け付けられません**
- (注2) : 審査期間中、研究開発代表者に対して、**審査の過程で生じた照会事項をAMEDが電子メールで送付することがあります。当該照会に対しては、照会時にAMEDが指定する方法で、期日までに回答してください。**
- (注3) : 採択課題候補となった課題の研究開発代表者に対しては、**審査結果等を踏まえた目標や実施計画、実施体制等の修正を求めることや、研究開発費合計額の変更を伴う採択条件を付すことがあります。**これらの場合においては、計画の妥当性について、再度検討を行う可能性があります。

質問①

Q 求められている成果を全て出すためには研究開発費・期間が足りないが、どうしたらよいか。

A (注)にも記載しておりますが、「求められる成果」に記載している全ての成果を研究期間内で出すことは必ずしも求められていません。設定された研究開発費の上限と期間の範囲内で現実的に最大限出していただける成果について、研究開発提案書にご記載ください。但し、より多くの成果を出す見込みの高い研究開発課題を優先的に採択致します。

質問②

Q 臨床研究ではなく、基礎研究のみでも応募可能か。

A 1～9のいずれの公募課題においても、基礎研究のみでも応募は可能ですが、最終的に臨床応用されることを考慮に入れて、実現可能性が高い長期的なロードマップを作成して、当該研究が治療法開発におけるどの段階にあって、当該研究がどのような役割を果たすのかを明示する必要があります。